

7月4日 北海道 樽前山

若林 憲治

山名	北海道 樽前山 1,041m		山行名	個人山行		
ルート						
山行日	2023年7月4日(火)		天候	曇りから晴		
参加者	(男性) 山下 小川 廣瀬 竹原 西川 若林 (女性) 上田 大林 玉井 和田 竹原					
ルート概略図 <pre> graph TD A[樽前山7合目登山口] --> B[東外輪山] B --> C[東山山頂] C --> D[東山外輪山] D --> E[樽前山登山口] </pre>	コースタイム					
	地名		時:分	地名		時:分
	登山口 7合目	集	13:40	真狩 YH	着	18:15
		発	14:00		発	
	東山外輪	着	:		着	
		発			発	
	山頂	着	15:00		着	
		発	15:10		発	
	東山外輪	着	15:35		着	
		発	:		発	
登山口 7合目	着	16:07		着		
	発	16:16		発		
フライトの遅れ・レンタカー手続きの手間取り・不慣れなカーナビ・土地勘のなさ等が重なり、7合目登山口への到着は計画より遅れる。頂上周辺の周回を計画していたが東山へのピストンとなる。関西国際空港 9時00分フライト 千歳空港よりレンタカーにて7合目の登山口へ 登山開始時雨具の心配もすぐさま小雨も上がり晴れバージョンへ。 樽前山登山口は7合目(標高 660m)道央地方南部にある支笏湖の南側 苫小牧市の北西部に位置する活火山である。 翌5日の羊蹄山足慣らしと登山計画 早朝の出発とフライト時間を考えれば高低差380mと低くはあったがトレーニングにはベストであったように思う。 登山道は整備され、幅も広い。軽石のような火山石の小石でやや滑りやすい。登山途中は 支笏湖と北海道の雄大な風景が眼下に見られ一同感動。時間に余裕があれば、火山山の樽前山と緑の風不死岳→支笏湖への縦走コースもお勧めだ。 真狩ユースホステル には18時の予定時間に到着しホットした。 宿からは正面に聳え立つ後方羊蹄山を見上げながら全員夕食を共にして早々床に就く。						
ヒヤリハット なし						

7月5日 北海道 後方羊蹄山

若林 憲治

山名	北海道 後方羊蹄山 1,898m	山行名	個人山行
ルート			
山行日	2023年7月4日(火)	天候	曇りから晴
参加者	(男性) 小川 若林 (CL) (女性) 上田 大林 玉井 和田		

ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時:分	地名		時:分
	真狩登山口	集			着	
		発	4:25		発	
	五合目	着	7:00		着	
		発			発	
	山頂	着	10:30		着	
		発			発	
分岐	着	11:07		着		
	発	12:30		発		
真狩登山口	着	16:55		着		
	発			発		

昨日の宿泊地は我々の早朝出発を配慮頂き(4時00分)真狩登山口迄は約7分の真狩ユースホテルを予約頂き大変助かった。真狩ユースホテルを予定の時刻出発(4時00分)周辺はキャンプ場も併用された場所で、平日にも関わらずテント泊者も見られる北海道でも人気の山で有ることが理解できた。

今日の登山ルートは高低差が約1,600mありコースタイムも往復10時間以上の長丁場になる覚悟を持ってスタート。昨夜半の雨の影響か湿度が高く非常に蒸し暑さがスピードを遅らせた。4日関西空港9時フライトと5日の早朝登山と2日間に渡り早起きと睡眠不足も影響か? 登り2名 下り1名が ツムラ シャクヤク甘草湯(68)のお世話になる。以前 後方羊蹄山に登られた Uさんも登り68のお世話に成り避難小屋分岐で待機されたが5名の方は登頂 頂上からは 雲海の中からニセコ アンヌプリも顔を覗かせてくれ Oさんの計らいでカルデラに残った雪を手にして戯れ束の間の時間を過ごす事が出来た。山頂付近ではチシマフウロやイワギキョウが我々を歓迎。約12時間半要して下山後は、温泉セットのコテージ真狩ユリ園にて遅くまで反省会兼ねた打ち上げ会の後床に就く。

後方羊蹄山は独立峰で水場が全くなく、水分量との過酷な登山では有ったが全員無事に下山。水分量に対して事前対応に配慮が足らずご苦勞をお掛けしたのはCLとしての反省材料であった。

ヒヤリハット なし



7月5日 北海道南部 チセヌプリ

山下 隆

山名	北海道南部 チセヌプリ 1134m		山行名	個人山行		
ルート	神仙沼レストハウス—神仙沼—チセヌプリ—パノマラライン登山口					
山行日	2022. 7. 5		天候	曇り晴		
参加者	リーダー：山下隆 男性：竹原、広瀬		サブリーダー：西川洋 女性：竹原絹枝 合計：5名			
ルート概略図 	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	宿（真狩 YH）	集		パノマラライン登山口	着	12:45
		発	6:30		発	13:10
	神仙沼レストハウス	着	7:26	車移動し五色温泉で散策	着	13:25
		発	7:35		発	14:00
	神仙沼	着	約 20 分	真狩温泉 ユリ園（宿泊）	着	16:08
		発			発	
ビーナスの丘	着	9:20	所要時間 5:10			
	発	9:30				
チセヌプリ（昼食休憩）	着	10:46		着		
	発	11:22		発		
<p>羊蹄山組5人と別行動。本日も天気良好。神仙沼・チセヌプリ1134m(累積520m)orニセコアンヌプリ1308mに行く計画をした。レンタカー2台なので、上手く配置し、神仙沼—長沼—チセヌプリ山間は縦走し、下山後に五色沼温泉が登山口のニセコアンヌプリ山のルートとした。</p> <p>一台はチセヌプリの下山口であるパノマラライン登山口に置いておき、2台目の車で大きな駐車場のある神仙沼レストハウスに着く。早朝なので、我らを含めて2組のみ。</p> <p>ツタが絡まった神仙沼入口の大きな標識からなだらかな道を南へ約30分歩くと突き当りに神仙沼方面と長沼方面の標識にぶつかる。左折し100mも行くと神仙沼入口に着く。木道の周回道路はあるが、湿原入口で菖蒲やエゾカゾリ・ワタツゲ・水草が迎えてくれて満足する。しばしミニチュア尾瀬の雰囲気味わったあと、来た道に戻り、長沼方面へ。長沼を眺めながら歩けると期待するも、ほんの一部からしかチセヌプリ山を写す景色は望めなかった。長沼はササヤブの隙間から水面を感じさせてくれた。ビーナスの丘の分岐では右になだらかな双耳峰のシャクナゲ岳1074mが美しい。左は250mの急坂が続くチセヌプリ。急坂手前では珍しい花があり、道草を楽しむ。万太郎さんの真似をして歓喜の声で鑑賞する。古びた急坂を元気に登り、貸し切りの頂上でゆったり昼食。頂上からの下りは大きな岩や段差の連続で想定外、標準の2倍かかる。慎重に下りた。</p> <p>イワオノプリかニセコアンヌプリ1308m(スキー場で有名)に登る予定だったが、本日のスケジュールから登山は諦め、両山の間にある五色温泉周辺の散策とした。両山は魅力的で簡単に登れそうだが、今後のお楽しみにした。特に、イワオノプリは磐梯山の小型の風貌で後ろ髪を引かれた。五色温泉は名所らしく、平日でも登山客・温泉客もパラパラといた。ただ、中心にある「ニセコ山の家」はクローズされ、過去の栄光の姿だった。新しいインフォメーションが建ってはいいたが、宿への途中で全員の夕食をゲットし、ニセコ温泉「ユリ園」で疲れて帰ってくるであろう羊蹄山組を待った。</p>						
ヒヤリハット；ナシ						

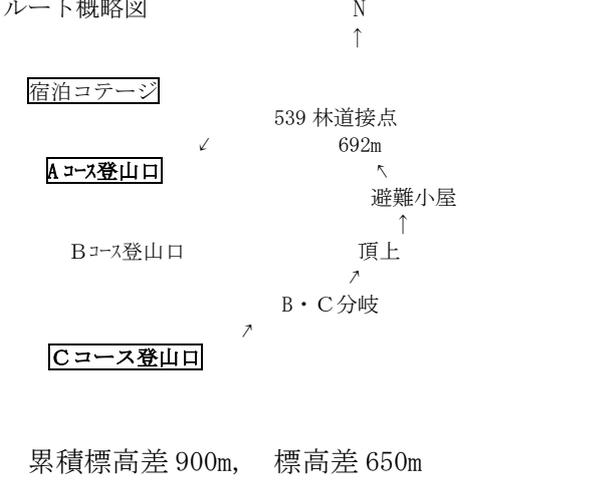
7月7日 北海道南部 雨竜沼湿原

山下 隆

山名	北海道南部 雨竜沼湿原（暑寒別山山麓）	山行名	個人山行	
ルート	南雨竜荘登山口→湿原入口→湿原展望台→湿原入口→南雨竜荘登山口			
山行日	2023.7.7	天候	晴	
参加者	リーダー：山下 サブリーダー：西川 男性： 広瀬、竹原 女性：上田、大林、玉井、竹原 合計：8名			
ルート概略図	コースタイム			
	地名	時：分	地名	
	滝川市宿スエヒロ	集		南雨竜荘登山口
		発	5:45	
	南雨竜荘登山口	着	6:45	雨竜町営風呂買物
		発	7:00	
	湿原入口	着	8:55	道民の森（宿泊）
発			着	
展望台（食事）	着	10:23	所要時間 約 6:40	
	発	10:55		発
山行報告 <p>先日（7/6日）は羊蹄山のふもとの真狩から 洞爺湖・昭和新山→石狩川河口にあるハマスの丘公園で「でっかい北海道」を楽しむ。滝川市の宿までは長距離ドライブとなる。その間、悪天予報だったが曇りで収まる。それに引き換え、4日目の今日7/7は又もや晴れに恵まれた。運の良さを皆で喜んだ。</p> <p>雨竜湿原は標高850mにあり、北海道の尾瀬ともいわれている。南北1km、東西約2kmとでかい湿原で心躍る。登山口から約2hrで湿原の入口に着く。この間の標高差は約300mで、そこそこのハイキングだが、歩き易い道とはいえず、大きな段差もところどころにあり、北海道特有のでっかいフキやウドが道をふさぐ。沢山の草花も名前知らずで紹介出来ない。湿原近くなって、霧に浮かぶダテカンバ林が印象的だった。湿原入口では霧も晴れてきて、晴天が迎えてくれた。パーと開けた湿原を歩き始めた時は尾瀬より小さいと感じたが、木道を進むうちに池塘の数は数え切れない、ワタスゲ・エゾカザリ・コウホネ・シナノキンバイ・・・しゃがみこんで 写真に夢中になる。行く手には 残雪が少し残る200名山の暑寒別山が雲の動きとともに見え隠れし、シャッターチャンスに悩まされる。湿原の中はすべて木道で時計まわりに指定されていた。西端の丘の展望台で休憩後に湿原入口までもっぱら木道をふみはずさないようにモクモク歩く。</p> <p>朝は開いていなかった登山口で入山料500円を支払い、お返しにいただいたクーポンは会計さんの活躍で120%活躍。300円の雨竜温泉でゆっくりし、カレーの食材をゲット後、予定より1hr遅れで道民の森に着く。料理名人達のお陰で素早く夕食が用意され、先日ゲットしたメロンは夕食を豪華にしてくれた。野外での食事は子供に戻ったようで、楽しい時間となった。</p> <p>ヒヤリハット； ナシ。</p>				

7月8日 北海道南部 神居尻山 山下 隆

山名	北海道南部 神居尻山 947m	山行名	個人山行
ルート	Cコース登山口→B・C分岐点→頂上→Aコース登山口		
山行日	2023.7.8 (土)	天候	晴
参加者	リーダー：山下 サブリーダー：西川 男性：広瀬、竹原 女性：大林、 合計：5名		

ルート概略図  累積標高差 900m, 標高差 650m	コースタイム			
	地名	時：分	地名	時：分
	Cコース登山口	発 8:15	Aコース下山	
	開拓台	着 9:12	Aコース登山口	着 14:40
	B・Cコース分岐点	着 10:10 発 10:17		
	頂上	着 10:50 発 11:15	登り；2:25 下り；3:25 所要時間；6:25 距離 約 10km	

今日は北海道山旅の最終日。今日も晴で天の神様に感謝する。北海道では今年一番の暑さと聞く。九州では梅雨真っ最中で豪雨に見舞われているというのに。羊蹄山では飲み水不足もあったので、慎重になる。3コースあり、管理人から山の情報を得て、危険なBコースは止め、展望のよいCコースを選択した。女性3人はそれぞれの理由で留守役に回る。留守役やウグイスの声に見送られ登山開始。直ぐにダケカンバの林だ。この神居尻山は北海道の自然がしっかり残された地域といわれ、道民の方々のいこいの場所で札幌から車で1~1.5hrで来れるとのこと。

道は想定以上に急坂で階段が多く、階段でないところは足首に負担がかかりカニ歩きになる。ロープも各所にある。天気が良いすぎて、風も少なく、蒸し暑い中を昨日までの疲れもあり10~25分毎に小休止しつつ、約2:30で頂上によく着く。頂上前後の切り立った美しい尾根の景観がこの山の魅力だった。又、昨日の唯一残雪のある暑寒別山も望まれた。

頂上では札幌から来た人なつこい女性からアイヌ語の挨拶言葉「イランカラプラ」や北海道グルメの話聞く。Cコースの下りは危険なので、距離は長い及安全なAコースをボチボチ降りる。標準の1.7倍。午後になっても風がなく、暑い。ソヨとした風にも「いい風！」と喜ぶ。ダケカンバの大木がいやしてくれた。登山道では生まれて初めての新鮮な熊のウンに出会う、直径15cmの大黒パンだ！

目指した4座とも天気に恵まれ、遠くから来たこの山旅を良き仲間と一緒に無事に終わられた幸せをつくづく思う。帰りの苫小牧東港から敦賀までのフェリー中で報告書をしたためた。ヒヤリハット； ナシ。

二日目の朝、YHから見える羊蹄山は雄大で美しい。朝4時に登山口を出発、一合目、二合目半～なかなか五合目がこない。

八合目のガレ場をすぎ九合目から外輪山に、頂上かと思いきや頂上は反対側にまだ先でした。旧小屋跡で満足する、バンザイ!!

四日目は暑寒別湿原へ、湿原内の木道を展望台まで歩く。エゾカンゾウ、ヒオウギアヤメ、ワタスゲ、黄や紫、白の花が咲き乱れて、本当に美しい。移動といい、湿原といい北海道はデッカイ道を実感する。五日目の道民の森で外での夕食は、カレー、頂いたメロンの美味しかったこと。天候に恵まれ、北海道の山を満喫出来ました。お世話になりました。御一緒出来皆様本当にありがとうございました。楽しかったです。

羊蹄山周辺の低山巡り旅日記 竹原順治 2023.07.17

<一日目>7月4日6:40 高速京田辺発の関空リムジンバス乗車。今回の旅は84~67才(平均74.6才)の11人だ。関空へは順調に到着。手荷物預けの手続きで大いに時間がかかったが、なんとか全員無事搭乗。ピーチの狭い座席でも約2時間の辛抱。無事、新千歳到着は11時過ぎ。レンタカー利用手続きの間に、持参の弁当で腹ごしらえ。3台のレンタカーに分乗して今回の最初の登山口、樽前山七合目へ向かう。途中、大回りのナビ案内と予想を超えた悪路のドライブで約1時間程度遅れて



登山口到着は2時過ぎ。にわか雨の空模様で雨具を着込んでの登山開始は2時半。計画より1時間半遅れのスタートで途中引き返しも覚悟のうえで樽前山(1022m)の登山道に入る。今回登山旅行の足慣らしとして標高差約360mを1時間(係数1.5)での登頂計画。初日ということで元気もあり50分で登り切り3時20分頂上に到着。眼下の山間に広がる支笏湖を眺めて改めて北海道に来ているのだと

いう感慨がわいてくる。頂上滞在を10分ほどに短縮して下山に向かう。計画1時間のところを45分で下山し、4時15分に7合目登山口に帰着。ここで、行程の遅れをほぼ取り戻し、本日の宿舎、真狩YHへ向かう。2時間のドライブで少しのロスはあったが、ほぼ予定通り6時20分にYH到着。雄大な夕暮れの羊蹄山を眺め、長かった今日の一日を振り返りながらYHの夕食をいただいた後、全員、早めの寝床についた。

<二日目>羊蹄山組6名は早朝4時に出発したが、低山組5名は6時に2台の車(A車とB車)でチセヌプリ(1134m)からイワオヌプリ(1116m)もしくはニセコアンヌプリ(1308m)登頂目指してYHを出発する。1時間余りのドライブでチセヌプリ登山口到着。A

車をここに待機させ、B車に5人全員が乗車して神仙沼駐車場に移動。ここから7時35分登山開始。このチセヌプリの山行は標高差約380m、歩行距離約5km。最初の2km余りは神仙沼の湿原から長沼の西側を進むほぼフラットなコース。次の1kmでビーナスの丘目指して約100mの緩やかな登り。そ



してここから頂上までの最後の水平距離 500mが直登で約 250mの登りという傾斜角 25 度を超える急坂。この急登を 1 時間 15 分掛けて登り切り頂上到着は 10 時 45 分。チセヌプリ頂上から羊蹄山が望めると期待していたが、生憎、手前のアヌプリの山陰になって見えず。残念。少し早い昼食をとって 11 時 30 分、A 車を置いたチセヌプリ登山口(標高 830m)目指して下山開始。登りの傾斜とほぼ同じ急坂を 1 時間 15 分で下り切り、12 時 45 分、全員無事、A 車まで到着。A 車に運転者 2 名が乗車して B 車を回収。これで、チセヌプリ山行は完了。このコースは、全体としては易しいが、最後の 10%でしんどさの 90%を費やさせる特異な山でした。

次いで 2 台の車は、次の 2 山の登り口である五色温泉の駐車場へ約 20 分のドライブ。駐車場からは、目の前に緑に覆われた大きな山容のアヌプリが、また硫黄山イワヌプリのはげ山がすぐそこに望める。行くとすれば、前者で 3 時間余、後者で 2 時間以内。時刻はまだ 2 時になっていない。前者はきついとしても、硫黄山は時間的には十分可能。しかし、チセヌプリの疲労で、今日の山行はここまでということ全員即決。この 2 山を眺望できる散策コースを歩いて、本日の宿舎、真狩温泉ユリ園コテージに向かう。途中のコンビニで羊蹄山組の分と合わせて 11 人分のコンビニ弁当をゲット。疲れ果てて下山してくる羊蹄山組を待つて、真狩温泉に浸かり、コンビニ弁当を肴に大いに盛り上がった夕食になりました。



<三日目>洞爺湖、昭和新山に寄り道して滝川までの約 250km の移動と休養日。登山の計画は無し。飛行機で帰る 3 人の見送りを受けて、8 人が 2 台の車で 8 時に宿舎を出発。洞爺湖畔の彫刻の公園で一休みした後、昭和新山の見学。その後、一路北上して札幌を通り抜け石狩はまなすの丘公園へ。日本海と石狩川にはさまれた半島の先端まで私は 1 日 1 万歩の達成のために歩きました。夕方、滝川のホテルスエヒロに到着。今回の旅での唯一のホテル泊です。飲み放題・食べ放題のジンギスカンを堪能しました。



<四日目>登山口から約 2 時間で 310m 登り、雨竜沼湿原を散



策するのが本日のメインです。ホテルを出て約 1 時間のドライブで最後の約 3km は対向車とすれ違えないような林

の中の山道をひやひやしながらゲートパークキャンプ場の駐車場に到着。ここが登山口(標高 540m)。登山開始は 7 時 20 分。ペンケペタン川に沿って 40 分、緩やかな登りで白竜の滝(標高 640m)を右に

見て通過。滝を過ぎて少し急な山道を 140m 登り切れれば雨竜沼湿原に連なる緩やかな登り。登り切れれば広々とした緑の湿原(標高 850m)。木道の途中に設けられた休憩所で集合写真は 9 時 25 分。木道は途中から一方通行の周回路になり、そこから枝分かれした展望台(標高 930m)への道を取り、10 時 20 分展望台に到着。広大な湿原を眺めながら昼食をとる。40 分の滞在で再度、一方通行の木道に戻り、湿原を周回して来た道に戻る。白竜の滝経由で登山口への到着は 1 時 35 分。ここまでの所

要時間は計画通り。入山料一人 500 円を支払う。その見返りは地元雨竜町で使えるクーポン。これを使わないと損ということで急遽、道の駅に寄り道。各自 100 円のクーポンを使ってかき氷やアイスクリームを食す。また、近くのスーパー銭湯でもこのクーポンが使えると判って、入湯をここに変更。気持ちよく汗を流す。途中、イオン滝川で今夜のメインディッシュのカレーライスや酒の肴、ビール等を購入して一路、今夜の宿舎、道民の森神居尻地区のロッジを目指す。到着時間は予定外の道の駅での寄り道等がたたって 1 時間遅れの 18 時。ここから、調理のプロたちが大活躍。さながら台所は戦場の様相。役立たずの吾輩は、ロッジ前庭の長椅子付テーブルを借用して自動販売機の明かりが使えるように自販機前にテーブルの長辺 3 人、短辺 1 人で全 8 人がうまく着席できる臨時的屋外食卓を設置。親切な管理人がテント用のランタンを貸してくれて、テーブルの上が一層盛り上がる。7 時過ぎにはトウモロコシやホタテのバター炒め等の肴をあてにビールを飲み始める。7 時半にはカレーもできたと全員テーブルに着けた。思わぬハプニングが重なって、北海道最後の夜は盛大な屋外パーティになりました。



<五日目>朝食は昨夜の屋外テーブルで昨夜の残ったカレーライス。私事、昨夜の残りカレーの朝食が大好きです。今日は、今回の旅の最終日。神居尻山(947m)への登頂です。登山口の標高は 315 mなので、実質 632mです。これまでの疲労が溜った 3 人が体調不良で自重し、5 名の山行になります。最もきつい B コースを避けて C コースを取ることにした。



8 時 15 分登山口に入る。頂上までの距離は 2.4km。最初から登り一辺倒。25 分で開拓台(469m)と呼ばれるビューポイント通過。高度が上がるにつれ傾斜もきつくなってくる。ロープ場もあり、よじ登る。大きな真っ黒い熊の糞も見つける。そんなこんなで B コース合流点(842m)で一息ついて頂上への最後の踏ん張りを利かす。頂上到着 10 時 50 分。北海道の山々の眺望がきれいだ。おむすびとパンを頬張るが、疲れすぎてあまり食欲がわかない。計画は C コースのピストンだったが、そのあまりの険しさに、距離は 2.5 倍の 6.4km と長くなるが緩やかな A コースで下山

することにした。このコースは険しいところはないが、小さなピークがいくつもあり、下ったかと思うとまた登りの繰り返し。YAMAP のデータでみると、累積の登りが 212m、下りが 887 mとなっていた。思った以上にしんどかったはずだ。もくもくと歩いて下山はほぼ計画通りの 2 時 40 分。待機組の 3 名と合流。後はレンタカーを返して苫小牧東港でフェリーに乗船する



だけだ。ナビを新千歳空港に設定して約 2 時間のドライブ。帰路に仙台に向かう 1 名が JR 千歳で下車した後、5 時 40 分無事新千歳空港でレンタカー返納。新千歳空港のロビーのテーブルを使って各自弁当を購入し夕食を取る。空港から南千歳まで JR で移動し、バスで苫小牧東港に向かう。乗船続

きを経て新日本海フェリー「すずらん」に乗船。出航は23時30分。



部屋に荷物を置いて、出航を待たずに大浴場へ。お湯に浸かってさっぱりした後はロビーの窓際のテーブル席に陣取って、よく冷えたビールを飲みながら船上で更けていく夜を楽しみました。



<六日目>朝ぶろを浴びて、朝食は昨夜のテーブル席に今まで持っていたおにぎりやパン、みそ汁などを持ち寄り、それらをきれいに平らげる。その後は各人、船上の一日を過ごす。私はトレーニングジムで流れる海の景色を見ながらベルトの上を4km歩行。そうこうしているうちに昼。レストランで味噌バターコーンラーメンとビール一杯。その後、これまでの疲れがでてか、ぐっすりと昼寝。夕方、起き上がって風呂に入って夕食は松花堂弁当をいただく。夕食後は下船のための荷物整理。あっという間に過ぎ去る船上の1日だが、これは山行で疲れた体へのご褒美だ。20時30分敦賀港に着岸。バスでJR敦賀駅へ。サンダーバードで京都。直Qバスで松井山手到着は11時前だった。

7月4日早朝に出立した6日間の北海道の旅が楽しい一杯の思い出をお土産にして、ここに全員無事、安全に帰着できたことに感謝！！

メロン小話

山下 隆

今回の山旅での宿は 真狩 YH、ロッジ2、船1。唯一、滝川市ではホテルでジンギスカンの食べ放題、ビールはサーバー付きの飲み放題で男性陣はいつもより飲みすぎで平常心も怪しくなる。食事が終わり、店を出ようとする店先にメロンが並ぶ。7個入り。我らはグループ8人で一つ足りない。店員さんは盛んに購入をすすめる。一つおまけするという。よくみると送料込みとの札を素早く見つけた仲間が、今持って帰るのでもう一つオマケしても・・・とつぶやく。さすが関西の旅人だ。二人の店員は少々悩むも軍配は当方にあがる。メロンは我らと共に24hr共にした後、宿の「道民の森」の冷蔵庫に収まる。丸いメロンは8個に切りやすく、屋外での最後の晚餐を盛り上げてくれた。うまい！ 残りの8個はどうした？ 各人が京田辺まで持ち帰り、お土産とした。香りもしてきて食べごろとなる。帰路は船なので荷物検査も無し。少し重くなったが、皆頑張っ、楽しい土産話とともに甘いお土産が出来ました。